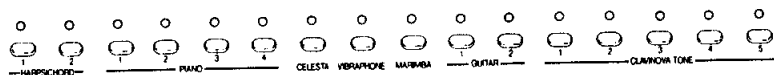


パフォーマンスメモリーで 演奏を記憶させてみましょう

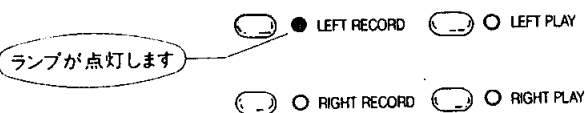
演奏を2トラックで多重録音することができます。両手で演奏するのが難しいときに片手ずつ演奏してあわせたり、音色を変えれば、ひとりでもゆたかなアンサンブル演奏をすることができます。

■レフトレコードに演奏をメモリーさせ、再生してみましょう。

1 音色セクターで好きな音色を選びます。

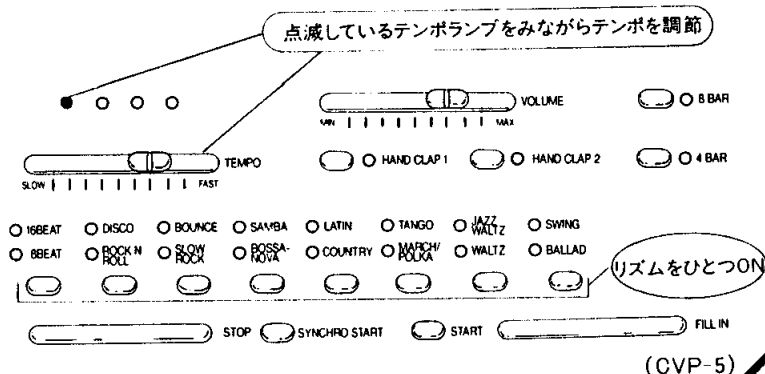


2 レフトレコードのボタンをON。



録音スタンバイの状態になります。

3 リズムをセット。

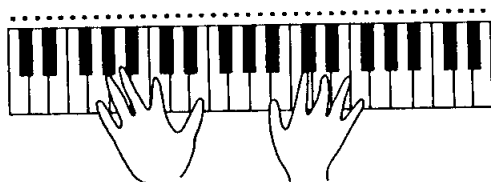


4 リズムのスタートボタンをON。



録音状態となり、1小節間イントロカウント(メトロノーム音)が鳴ります。

5 さあ、弾いてみましょう。



タッチまで演奏したとおりにリアルタイムでメモリーされます。左手だけでなく、両手を使って演奏してもかまいません。

6 演奏がおわったらリズムのストップボタンをON。レフトプレイをONすれば演奏が再生されます。



ストップをおすとリズムがとまり、レフトレコードが自動的にキャンセルされます。

NOTE

★テンポはあとで調節できるので、ゆっくりにしてもかまいません。

●イントロカウントの間に演奏すると、再生のときはリズムなしの小節となります。

★鍵盤を同時におさえて8音まで鳴り、メモリーします。

★リズムスタートのボタンをおさないで、すぐに演奏をはじめてもかまいません。

★パフォーマンスメモリーでは、演奏した内容と一緒につぎのものをメモリーします。

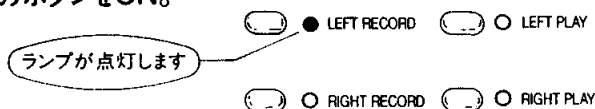
- ・音色セクター(演奏しながらの変更もメモリーします)
- ・リズムセクター(演奏しながらの変更もメモリーします)
- ・ダンパーペダル、ソフトペダル
- ・テンポの速さ
- ・リズム音の有無(リズムのボリュームはメモリーしませんが、レバーの位置を最小にしてリズム音を消したデータはメモリーされます)
- ・ベースをメモリーさせたときはその音色

●ピアノABCをパフォーマンスメモリーにメモリーさせることはできません。

★レフトコードのボタンをもう一度おしても停止させることができます。

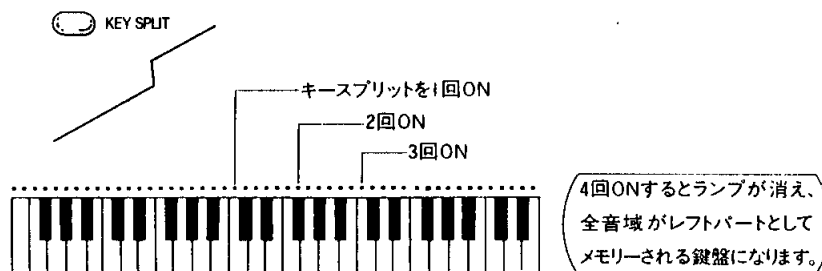
(レフトパートとベース演奏を同時にメモリーすることもできます)

1 音色セクターで、レフトパートを演奏する音色を選んだらレフトレコードのボタンをON。



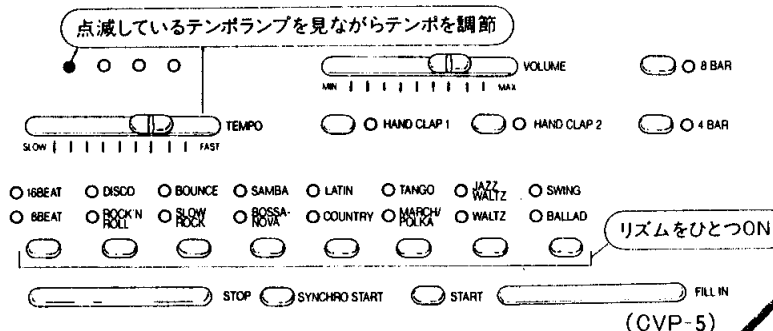
録音スタンバイの状態になります。

2 キースプリットのボタンをおして、ベースとして演奏する低音域鍵盤の範囲を設定します。



キースプリットをONすると、ガイドランプがひとつ点灯します。ランプが点灯している鍵盤から左(低音域)がベース演奏用の鍵盤です。

3 リズムをセット。



4 リズムのスタートボタンをON。



録音状態となり、1小節間イントロカウント(メトロノーム音)が鳴ります。

5 さあ、両手で演奏しましょう。

左手でベース、右手でレフトパートを演奏します。

6 演奏が終わったらリズムのストップボタンをON。



リズムがとまり、レフトレコードが自動的にキャンセルされます。

NOTE

★ベースの音色は、選んだリズムセクターと、アカンパニメント1・2・3(CVP-7)、またはピアノABCのバリエーションのON/OFF(CVP-5)によって設定されます。

★テンポは再生のときに調節できるのでゆっくりにしてもかまいません。

★ベース用鍵盤からは同時に2音、レフトパート用の鍵盤からは同時に4音まで鳴り、メモリーさせることができます。

★レフトレコードをもう1度おしても停止させることができます。

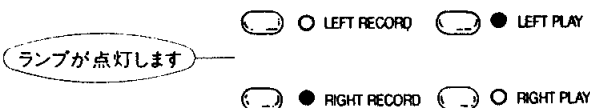
■ライトレコードに演奏をメモリーさせ、再生してみましょう

1 音色セクターで好きな音色を選びます。



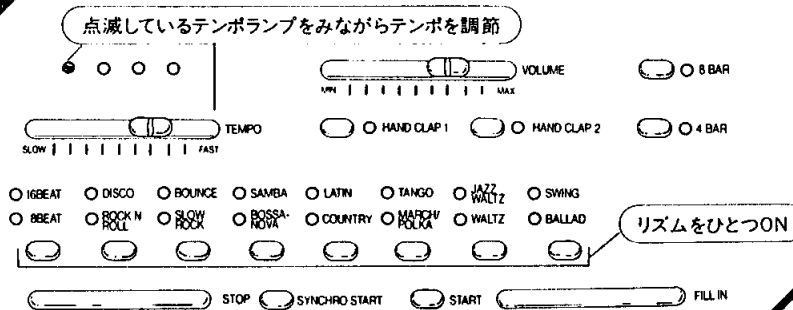
レフトレコードと違う音色でメモリーすることができます。

2 ライトレコードとレフトプレイのボタンをON。



録音スタンバイの状態になります。

3 リズムをセット。

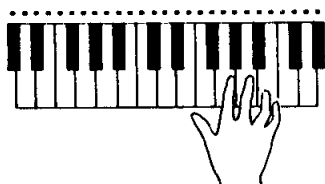


4 リズムのスタートボタンをON。



録音状態となり、テンポランプが左から順に点滅していきますが、最初の1小節間はリズム音やメトロノーム音が鳴りません。

5 さあ、弾いてみましょう。



左手のパートの再生にあわせて演奏しましょう。右手だけではなく、両手を使って演奏してもかまいません。

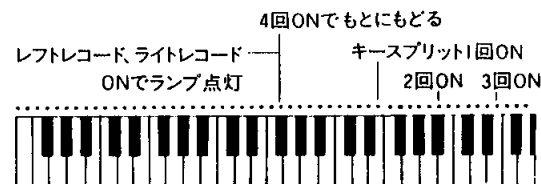
6 演奏がおわったらリズムのストップボタンをON。ライトプレイをONすれば演奏が再生されます。



NOTE

★左手のパートを再生せずに右手の演奏をメモリーさせることもできます。

★レフトとライト両方のレコードをONして、一度にメモリーさせることもできます。両方のレコードをONすると、F#2のガイドランプが点灯します。この鍵盤より低音域で演奏したデータがレフトレコードに、高音域のデータがライトレコードにメモリーされます。レフト、ライトはそれぞれ8音ずつ鍵盤を同時におさえてならし、メモリーすることができます。また、キースプリットで下の図のように、ガイドランプの位置を移動し、音域の設定を変えることもできます。



★左手のパートを再生せずに右手の演奏のメモリーをする時は、最初の1小節間にイントロカウント(メトロノーム音)が鳴ります。

★リズムスタートをおさずに鍵盤を弾いてメモリーをスタートすることもできますが、左手のメモリーの時にリズムスタートをONしていると、1小節分タイミングがかわなくなります。

★同時に8音まで鳴り、メモリーすることができます。

★ライトレコードをもう1度おしても、停止させることができます。

★パフォーマンスメモリーのメモリー容量はライト、レフトともに約1,000音符です。容量いっぱいまで、メモリーすると自動的にレコードがキャンセルされます。

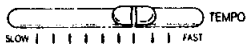
■レフトレコード、ライトレコードにメモリーした演奏を同時に再生してみましょう

1 レフトとライトのプレイのボタンをON。

☐ LEFT RECORD ☒ LEFT PLAY
☐ RIGHT RECORD ☒ RIGHT PLAY

ランプが点灯します

2 テンポを調節。




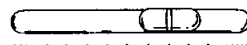
曲にあったテンポに調節しましょう。

3 リズムスタートのボタンをON。

☐ SYNCHRO START ☒ START

左手と右手の演奏が同時に再生されます。


4 ボリュームのバランスを調節。

☐  LEFT PM LEFT
☐  RIGHT PM RIGHT

ROMミュージック/パフォーマンスメモリーボリュームのレフト、ライト、ベースのレバーを調節してバランスをとります。メモリーした演奏がおわると再生は自動的にとまります。

■メモリーした演奏を途中から変更するには

1 演奏を再生し、聴きながらメモリーしなおしたいところの前でポーズをON。

 PAUSE

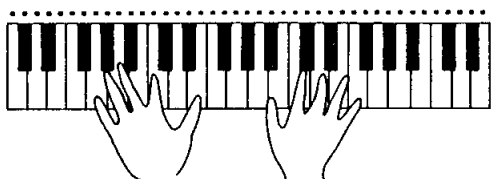
演奏がストップし、ポーズをONしたタイミングのテンポランプが4分音符単位で点滅します。

2 メモリーしなおしたいパートのレコードボタンをON。

☐ LEFT RECORD ☐ LEFT PLAY
☐ RIGHT RECORD ☐ RIGHT PLAY

録音スタンバイ状態になっています。

3 鍵盤を弾いて、メモリーしなおします。



最後まで演奏してください。部分的な変更はできません。

NOTE

★レフトプレイ、またはライトプレイのボタンをおして、どちらか片方のパートだけを再生することもできます。そのとき、再生にあわせて最高8音までの演奏をすることができます。音色は、音色セクターで自由に選べます。

●レフトパートとライトパートを違うリズムでメモリーさせていると、プレイのボタンを後でONしたパートのリズムで再生されます。

●レフトとライトの両方のパートを再生しているとき、鍵盤から音はでません。

●メモリーさせたパフォーマンスメモリーのデータは、次のいずれかの操作を行わないかぎり、パワースイッチをOFFにしても約1週間保持されます。

・レフトレコード、ライトレコードをONして演奏する、もしくはリズムをスタートする。

・ROMミュージックブックを使用する。

・シーケンサーメモリーを使用する。

・RAMミュージックノートブック、またはカセットテープからデータをロードする。

※このような操作をする際、パフォーマンスメモリーにメモリーさせたデータを消したくない場合は、別売のRAMミュージックノートブック、もしくはカセットテープにセーブしてください。(くわしくは24～25ページを参照してください)

●再生しているとき、リズムセクターやテンポは変えることができますが、音色セクターで音色を変えることはできません。

★このとき、音色の変更をすることもできます。

パフォーマンスメモリーで 「メモリー」を演奏してみよう。

「MEMORY」-musical「Cats」-

A. L. Webber 作曲

Slow Rock

(メロディー) **C** **Am** **F**

レフト

(ベース)

(1×Tacet) (右手は1回目はお休み)

ライト

Em **Dm** **Am** **G** **C**

(メロディー)

レフト

(ベース)

ライト

© 1981 by The Really Useful Company Ltd.
Rights for Japan assigned to CHAPPELL/INTERSONG K

日本音楽著作権協会(出)許諾第8570101 501

まずは、メロディーをレフトレコードにメモリー

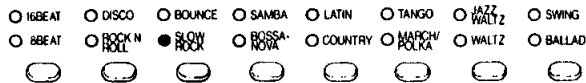
1. 音色セクターのピアノをON。



2. レフトレコードのボタンをON。



3. リズムセクターでスローロックを選びます。



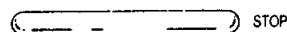
テンポはあとで調節できるので、弾きやすい速さにします。

4. リズムのスタートボタンをON。



イントロカウント(メトロノーム音)でテンポを確認して、上の段のメロディーを演奏します。

5. 演奏がおわったら、リズムのストップボタンをON。



次に下の2段をライトレコードにメモリー

6. 音色セクターのクラビノーバトーン3をON。



7. ライトレコードとレフトプレイのボタンをON。



8. リズムのスタートボタンをON。



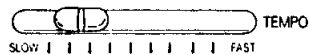
レフトパートの演奏にあわせて、下の2段を両手で弾きます。イントロの2小節は休み、3小節目のメロディー演奏がはじまる場所から演奏します。1回目左手でコードをおさえるだけ、くり返しから両手で弾きます。

聴いてみましょう。

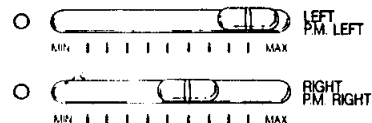
9. レフトプレイ、ライトプレイのボタンをON。



10. テンポを調節。



11. レフト、ライトのボリュームを調節



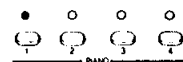
★タッチによって多少の違いがあります。

12. リズムのスタートボタンをON。

ひとりて演奏したアンサンブルはいかがでしょうか。

できたら、ベースもオリジナルをメモリー

13. 音色セクターのピアノをON。



14. レフトレコードのボタンをON。



15. キースプリットのボタンを2回おします。

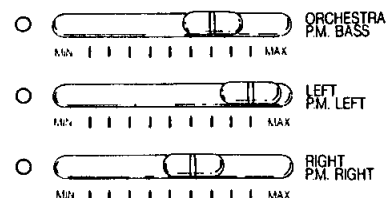


点灯しているガイドランプより左(低音域)がわかベース演奏用の鍵盤です。

16. リズムのスタートボタンをON。

前にメモリーしたメロディーは消えてしまうので、もう1度右手でメロディーを演奏しながら左手でベースラインを弾きます。

17. 3パートのボリュームを調節して、聴いてみましょう。



シーケンサーメモリーで コードをおぼえさせてみましょう

シーケンサーメモリーは、コード進行をメモリーさせたり、オリジナルのベースラインをつくる機能。コード進行が複雑で演奏が難しい曲を手軽に弾いて楽しんだり、ベースに特長のある曲の雰囲気を出して演奏することができます。

■コードをメモリー

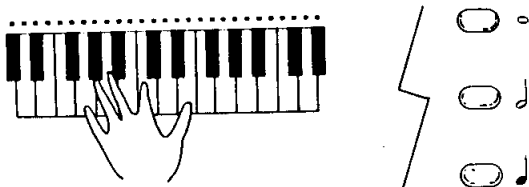
1 コードレコードをON。

☐ ● CHORD RECORD ☐ ○ CHORD PLAY

☐ ○ BASS RECORD ☐ ○ BASS PLAY

ピアノ/ABCスイッチが自動的にONされます。

2 ピアノ/ABC用鍵盤でコードをおさえたままで、音符ボタンをおしてメモリーします。



○は4拍、♪は2拍、♪は1拍分、そのコードをメモリーします。音符ボタンをおすと、そのコード音が鳴り、確認できます。

3 楽譜を見ながら順番にメモリーさせましょう。

4 メモリーがおわったら、もう1度コードレコードをおします。

☐ ○ CHORD RECORD ☐ ○ CHORD PLAY

☐ ○ BASS RECORD ☐ ○ BASS PLAY

NOTE

★3拍子の曲の場合、1小節分メモリーするには♪+♪+♪とおします。

★ノーコードの部分をつくりたい時は、鍵盤をおさえないでその拍数の音符ボタンをおします。この時、確認のため“ピン”という音になります。

■再生

1 好きなリズムをセット。

<input type="radio"/> 16BEAT	<input type="radio"/> DISCO	<input type="radio"/> BOUNCE	<input type="radio"/> SAMBA	<input type="radio"/> LATIN	<input type="radio"/> TANGO	<input type="radio"/> JAZZ WALTZ	<input type="radio"/> SWING
<input type="radio"/> 8BEAT	<input type="radio"/> ROCK'N ROLL	<input type="radio"/> SLOW ROCK	<input type="radio"/> BOSSA-NOVA	<input type="radio"/> COUNTRY	<input type="radio"/> MARCH POLKA	<input type="radio"/> WALTZ	<input type="radio"/> BALLAD

テンポとボリュームも調節します。

2 コードプレイをON。

☐ CHORD RECORD ☒ CHORD PLAY

☐ BASS RECORD ☐ BASS PLAY

シンクロスタートが自動的にセットされます。

3 リズムのスタートボタンをON。

☐ SYNCHRO START ☐ START

メモリーしたコード演奏がくり返し再生されます。コード演奏にあわせてメロディーを弾いてみましょう。

■途中から変更するには

1 演奏を再生し、聴きながらメモリーしなおしたいところの前でポーズをON。

☐ PAUSE

演奏がストップし、ポーズをONしたタイミングのテンポランプが4分音符単位で点滅します。

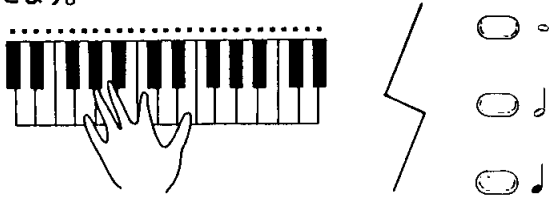
2 コードレコードをON。

☒ CHORD RECORD ☐ CHORD PLAY

☐ BASS RECORD ☐ BASS PLAY

点滅していたテンポランプが消え、ポーズが自動的にキャンセルされます。

3 ピアノABC用鍵盤でコードをおさえたまま音符ボタンをおしてメモリーさせます。



最後までメモリーさせます。部分的な変更はできません。

4 メモリーがおわったら、コードレコードのボタンをもう1度おします。

☐ CHORD RECORD ☐ CHORD PLAY

NOTE

★ピアノABC用鍵盤、フィルインをおしてスタートさせることもできます。

★たとえば、3小節めから変更したいときは、2小節演奏されたあとにポーズをONし、テンポランプの左はじが点滅するようにします。

- シーケンサーメモリーに記憶されたデータは、次のいずれかの操作を行わないかぎり、パワースイッチをOFFにしても約1週間保持されます。
 - ・新しいデータをシーケンサーメモリーにメモリーする
 - ・ROMミュージックブロックを使用する
 - ・パフォーマンスメモリーを使用する
 - ・RAMミュージックノートブック、またはカセットテープからデータをロードする。

■「雨音はショパンの調べ」のコードをメモリーしてみましょう

GAZEBO & P.L. Gimmini 作曲

メロディー

コード

ベース

Am F#m A G Em

1oct.低く

メロディー

コード

ベース

Am F#m A G Em

© Copyright 1983 by Ed. Televis / Allione.
The Rights for Japan assigned to Pacific Music Publishing Co., Ltd. Tokyo. 日本音楽著作権協会(出)許諾第8570301-501号

それでは、上の楽譜を例に実際にコードをメモリーしてみましょう。曲は「雨音はショパンの調べ」。有名なイントロの部分です。

メモリー

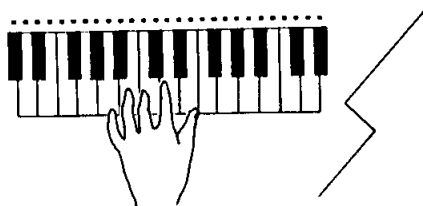
1. コードレコードのボタンをON。

☐ ● CHORD RECORD ☐ ○ CHORD PLAY

☐ ○ BASS RECORD ☐ ○ BASS PLAY

2. 楽譜にそってコードをメモリー。

・Amをおさえながら、☐ をON。



- ・Fをおさえながら、☐ をON。
- ・Gをおさえながら、☐ をON。
- ・Emをおさえながら、☐ をON。

もう1度くりかえしてメモリー完了。

あわせて演奏してみましょう

3. コードプレイをON。

☐ ● CHORD PLAY

4. リズムセクターをディスコに。

☐ RBEAT ☒ DISCO ☐ BOUNCE ☐ SAMBA ☐ LATIN ☐ TANGO ☐ JAZZ ☐ SWING
☐ RBEAT ☐ ROCK N ROLL ☐ SLOW ROCK ☐ BOSSA-ROVA ☐ COUNTRY ☐ MARCH ☐ POLKA ☐ WALTZ ☐ BALLAD

5. リズムのテンポとボリュームを調節。

TEMPO: SLOW | | | | | FAST
VOLUME: MIN | | | | | MAX

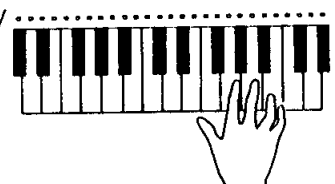
6. ピアノABCのボリュームを調節。

CHORD VOLUME: MIN | | | | | MAX
BASS VOLUME: MIN | | | | | MAX
VOLUME: MIN | | | | | MAX

7. メロディーを弾いてみましょう。

☐ SYNCHRO START

☐ START



出だしの「ミラシ」を弾いてから、左手でリズムスタートON。

■できたらベースもメモリーしてみましょう

コードにあわせて、ベースをメモリー。

1 ベースレコードとコードプレイのボタンをON。

☐ CHORD RECORD ☒ CHORD PLAY

☐ BASS RECORD ☒ BASS PLAY

ランプが
点灯します

2 リズムをセット。

☐ 16BEAT ☐ DISCO ☐ BOUNCE ☐ SAMBA ☐ LATIN ☐ TANGO ☐ JAZZ ☐ SWING
☐ 8BEAT ☐ ROCK'N'ROLL ☐ BOSSA ☐ COUNTRY ☐ MARCH ☐ WALTZ ☐ BALLAD

選んだリズムの種類もメモリーします。

3 リズムのスタートボタンをON。

☐ SYNCHRO START ☒ START

1小節間「チッ・チッ・チッ・チッ」とイントロカウント(メトロノーム音)がなり、リズムとコード伴奏がスタートします。

4 リズムとコードにあわせて、ベースラインを演奏しましょう。



このへんで演奏すると
ベースらしい響きになります。

全音域を使うことができますが、低音域で弾いた方がベースらしくなります。

5 演奏がおわったら、リズムのストップボタンをON。

☐ STOP

コードとベースを再生させて、メロディーを弾いてみましょう。

6 コードプレイとベースプレイのボタンをON。

☐ CHORD RECORD ☒ CHORD PLAY

☐ BASS RECORD ☒ BASS PLAY

7 リズムのスタートボタンをON。

☐ SYNCHRO START ☒ START

コードとベースの演奏にあわせてメロディーを弾きましょう。

NOTE

★コードを再生せずに、ベースをメモリーすることもできます。

★テンポはあとで調節できます。弾きやすいようにゆっくりしたテンポにしてもかまいません。

★ベースの音色は、選んだリズムと、ピアノABCのアカンパニメント1・2・3(CVP-7)、またはバリエーションのON/OFF(CVP-5)で設定されます。

★イントロカウントの間に演奏することもできますが、再生のときはリズムなしの小節となります。

★ベース演奏を途中から変更することもできます。変更したいところの前でポーズをON。ベースレコードをONにして、そこから最後まで演奏しなおします。

オリジナルの ミュージック・ライブラリーをつくりましょう

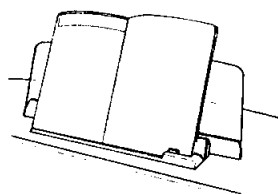
パフォーマンスメモリーやシーケンサーメモリーにメモリーさせたデータをRAM<ラム>ミュージックノートブック
(別売付属品)またはカセットテープにデジタル録音をして、保存することができます。

■RAMミュージックノートブック

セーブ・クラビノーバ→RAMミュージックノートブック

データの録音

1. RAMミュージックノートブックをクラビノーバのソケットにセット。



2. セーブのボタンをON。



セーブのランプが点灯し、すぐに消えます。これで、パフォーマンスメモリー、もしくはシーケンサーメモリーのデータがRAMミュージックノートブックにセーブされています。

★正しくセーブされないエラーとなり、ランプが点滅します。もう1度セーブのボタンをONしてランプを消してから、セーブしなおしてください。

セーブの確認

3. コンファームのボタンをON。



コンファームのボタンが点灯し、すぐに消えます。

★セーブした後、コンファームをONする前に本体のパフォーマンスメモリーやシーケンサーメモリーのデータを変更すると、コンファームをONした時にランプが点滅します。

★データが入っていない場合、コンファームのランプが点灯したままになります。もう1度コンファームのボタンをONしてランプを消し、セーブしなおしてください。

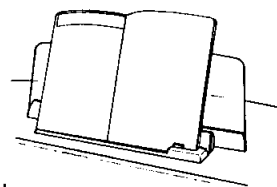
★RAMミュージックノートブックの容量

	本体 (14Kバイト)	RAM.Mノートブック (8Kバイト)
パフォーマンスメモリー	レフト、ライト それぞれ約1,000音符	レフト、ライト 合わせて約1,100音符
シーケンサーメモリー	コード約1,000コード ベース約2,000音符	約1,000コードまたは ベース約1,600音符

ロード・RAMミュージックノートブック→クラビノーバ

データの読み込み

1. RAMミュージックノートブックをクラビノーバのソケットにセット。



2. ロードのボタンをON。



ロードのランプが点灯し、すぐに消えます。これでRAMミュージックノートブックに保存されていたデータが本体にロードされます。

★ロードすると、そのとき本体にメモリーされていたパフォーマンスメモリー、シーケンサーメモリー、ROMミュージックブックのデータは消去されます。

★ロードの後、コンファームのボタンをONすればデータの確認することができます。正しくロードされていればコンファームのランプが点灯し、すぐに消えます。

NOTE

★以下のような場合、セーブ、ロード、またはコンファームの際にエラーとなり、そのランプが点滅します。もう1度同じボタンをおせばランプは消えます。

	原因	処理	対処法
セーブ	パフォーマンスメモリー、またはシーケンサーメモリーのデータがない。	セーブ処理されない。	パフォーマンスメモリー、またはシーケンサーメモリーのフレイをONしてデータを確認して、いずれのフレイもONされない時は、メモリーをしなおしてセーブしてください。
	本体にメモリーしてあるデータの量がRAMミュージックノートブックの容量より大きい。	RAMミュージックノートブックの容量分だけセーブする。	25ページを参照して、カセットテープにセーブしてください。
コンファーム	本体のデータとRAMミュージックノートブックのデータの内容が一致しない。	メモリー内容は変化しない。	セーブ、またはロードをやりなおしてください。
	セーブの際、本体にメモリーしてあるデータの量がRAMミュージックノートブックの容量より大きいためセーブしきれなかった。	メモリー内容は変化しない。	
ロード	RAMミュージックノートブックに有効なデータがない。	ロード処理されない。	
	RAMミュージックノートブックのデータの一部分が破壊されている。	本体のメモリー内容が消去される。	

★RAMミュージックノートブックの電池寿命は約2年間です。電池が切れるとセーブされていたデータが消去されますので、早めに交換してください。

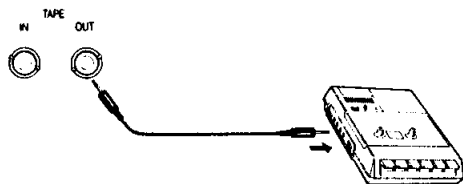
★RAMチップに強度の静電気を加えるとセーブされていたデータの内容が変化することがありますので、ご注意ください。

■カセットインターフェイス

セーブ・クラブノーバ→カセットテープ

データの録音

1. クラブノーバのTAPE OUT端子とデータレコーダのMIC IN端子をコードで接続。



2. カセットテープをデータレコーダにセット。
何も記録されていない部分をさがします。
3. データレコーダの録音スイッチをON。
4. セーブのボタンをON。



5. セーブが完了すると、セーブのランプが自動的に消灯。
データレコーダのスイッチをOFFにします。

セーブの確認

6. テープを巻き戻します。
7. コンファームのボタンをON。



8. データレコーダの再生スイッチをON。
9. 正しくセーブされていれば自動的にコンファームのランプが消えます。

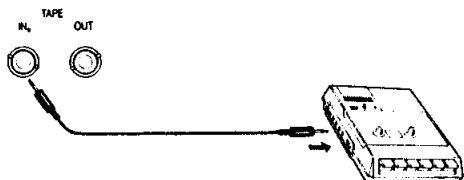
正しくセーブされていない時はエラーとなりランプが点滅します。もう1度セーブしなおしてください。

★データが入っていない場合や、レベルが大きすぎたり小さすぎる場合、コンファームのランプは点灯したままになります。

ロード・カセットテープ→クラブノーバ

データの読み込み

1. クラブノーバのTAPE IN端子とデータレコーダのHEADPHONES端子(EARPHONE端子)をコードで接続。



2. カセットテープをデータレコーダにセット。
記録させてあるところまでテープを巻き戻します。

3. ロードのボタンをON。



4. データレコーダの再生スイッチをON。
5. ロードが完了すると、ロードのランプが自動的に消えます。

★ロードをすると、そのとき本体にメモリーされていたパフォーマンスメモリー、シーケンサーメモリー、ROMミュージックブックのデータは消去されます。

★ロードの後も、〈セーブの確認〉と同じ操作によってロードしたデータの確認をすることができます。

NOTE

★セーブ、ロード、コンファームがONされている時、鍵盤から音はでません。
★セーブ、ロード、コンファームに要する時間は、データの量によって異なりますが、最大80秒です。

★接続が不完全であったり、データレコーダとのマッチングが悪い場合ロード、セーブのランプが点灯したままになります。そのボタンをもう1度おして、ランプを消し、接続などを確認してからやりなおしてください。

★対応させるデータレコーダは次のものをご使用ください。

MIC IN端子	入力インピーダンス: 10kΩ以上 最少入力レベル : 10mV以下
HEADPHONES端子 (EARPHONES端子)	出力インピーダンス: 10Ω以下 出力レベル : 2.5V以上

★セーブ、ロードがうまくいかない場合、次のチェック項目にそって確認してください。

- ①再生時にデータレコーダのロードボリュームツマミを中央より高め(10段階目盛では6~8)に合わせてください。レベルが大きすぎても読み込みません。

- ②データレコーダの録音・再生操作は間違っていないか。




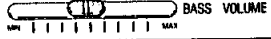

(録音したあと、データレコーダからコードを抜いてテープを再生してください。ピーという音が出れば録音されています。ピーという音がでない場合はコードなどを確認してください。)

- ③データレコーダのヘッドが汚れていませんか。録音、再生ヘッドのクリーニングを試みてください。

- ④テープを確認してください。

- ・テープはコンピュータ用のものか、あるいはオーディオ用の場合はノーマルテープ、ローノイズタイプの30分か45分のもをご使用ください。
- ・テープ面に折り目、継目、シワがないことを確認してください。
- ・新しいテープをご使用ください。また、テープの巻き始めはシワなどによってエラーとなることがありますので、少し空送りしてからご使用ください。

★データレコーダによっては、セーブ、ロードができない場合もあります。

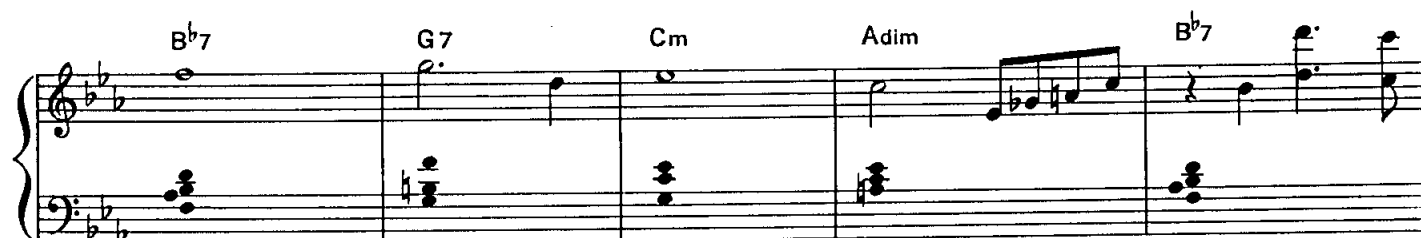
音 色	リズム	ピアノABC	
ピアノ1	バラード ・リズムボリューム  VOLUME ・テンポ  TEMPO	<CVP-7> ・ピアノABCスイッチON ・アカンパニメント1 ・ボリューム  CHORD VOLUME  BASS VOLUME	<CVP-5> ・ピアノABCスイッチON ・ボリューム  VOLUME

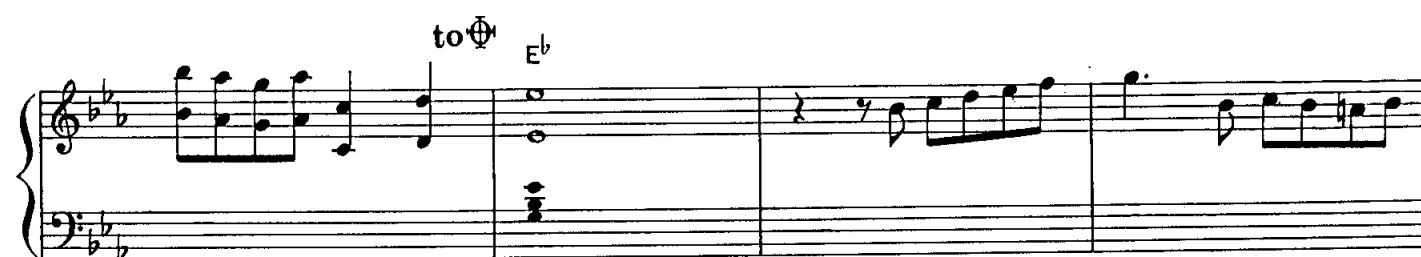
トゥ・ラブ・アゲイン

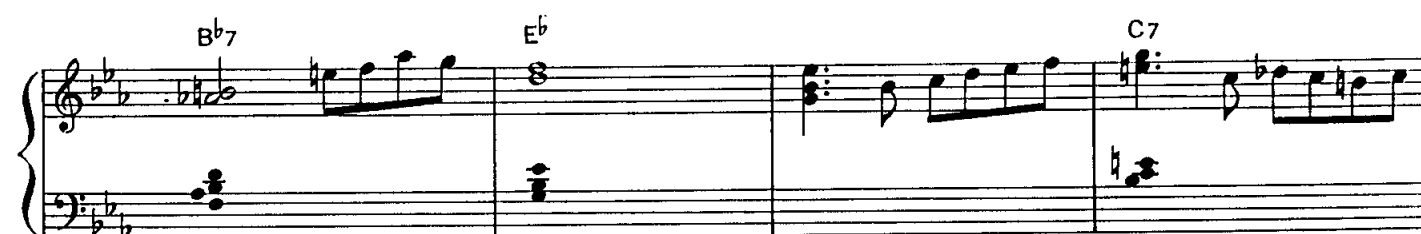

 E^b E^b B^b7 E^b
 1oct.低く

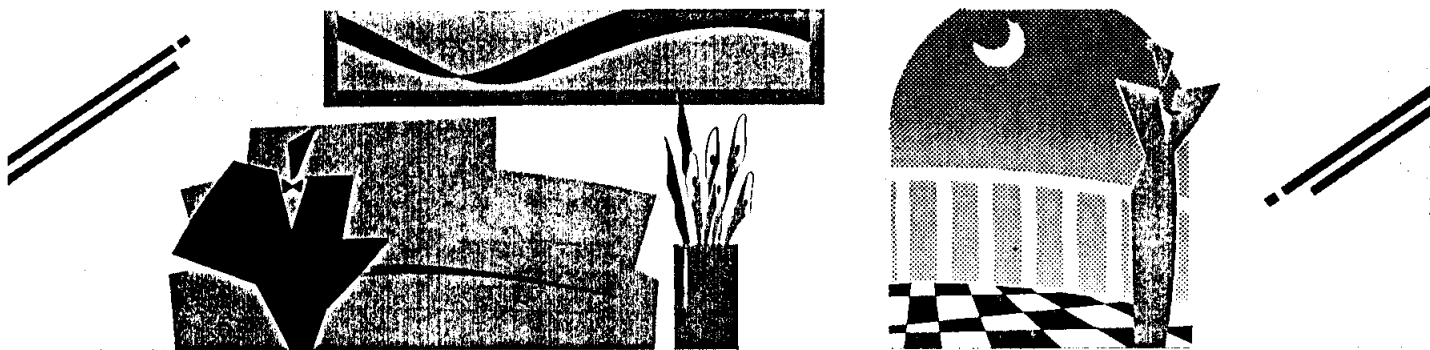
ピアノABCを使って自動伴奏させるときは、
 コードが変わるときだけ鍵盤をおさえます。


 C7 Edim Fm


 B^b7 G7 Cm Adim B^b7


 to E^b


 B^b7 E^b C7



M. Stolfoff & G. Sidney 作曲

Edim 8 Fm B^b7 G7 Cm Adim

B^b7 E^b B^b

F A^b A^bm E^b

Edim A7 Dm Gm Cm F7



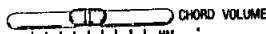
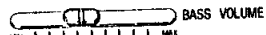

B^b B E C Fm B^b

⊕Coda EM7 EM7 rit. リズムストップ ON

© Copyright 1955 and 1956 by SHAPIRO, BERNSTEIN & CO., INC.—FILM DIVISION, New York, N. Y., U. S. A.
Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo
Authorized for use and distribution in Japan only

リズムストップ ON

日本音楽著作権協会(出)許第8570301-501号

音 色	リズム	ピアノABC	
ピアノ4	8ビート ・リズムボリューム  VOLUME ・テンポ  TEMPO	<CVP-7> ・ピアノABCスイッチ OFF ・アカンパニメント1 ・ボリューム  CHORD VOLUME  BASS VOLUME	<CVP-5> ・ピアノABCスイッチ OFF ・ボリューム  VOLUME

やさしく歌って

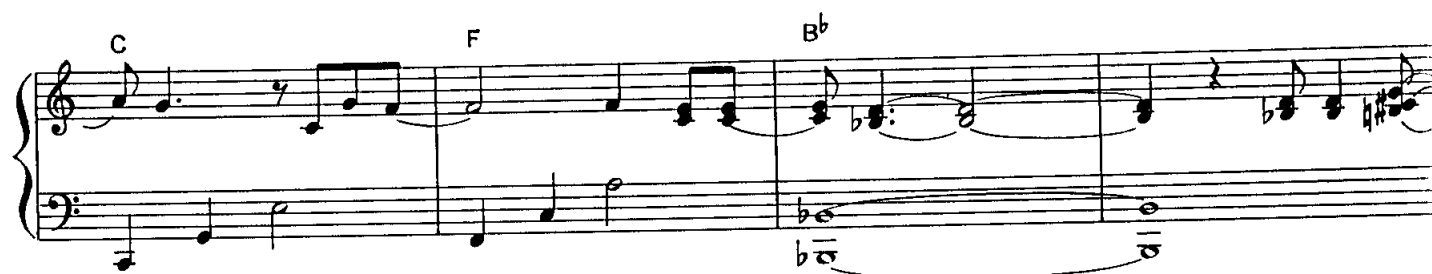
Am Dm7 G7 CM7



Am D7 G7 F

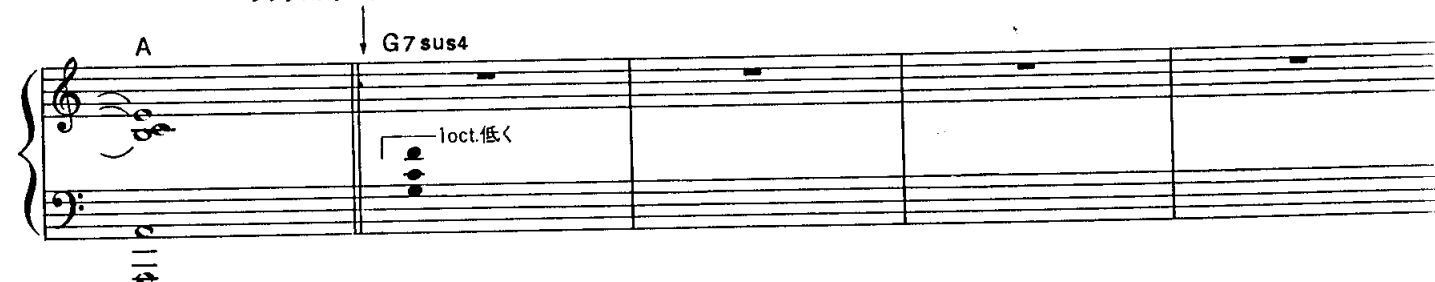


C F B^b

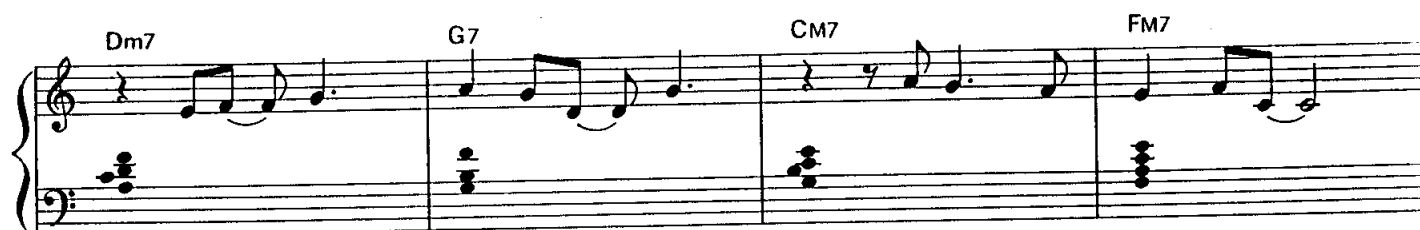


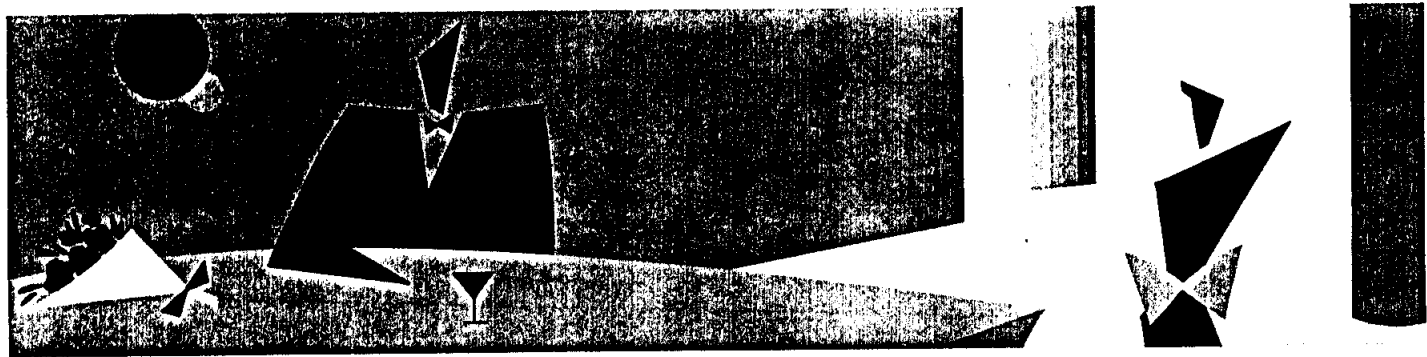
シンクロスタート&ピアノABCスイッチON

A G7 sus4



Dm7 G7 CM7 FM7





G. Fox 作曲

Chord progression: Dm7, G7, Am

Chord progression: Dm7, G7, CM7, E7

Chord progression: Am, Dm7, G7, CM7, Am







Chord progression: D7, G7, FM7, CM7

Chord progression: FM7, B^bM7, A

2拍目でリズムストップON

© Copyright 1972 by NORMAN GIMBEL and CHARLES FOX
Rights for Japan controlled by Shinko Music Publishing Co., Ltd., Tokyo
Authorized for use and distribution in Japan only

日本音楽著作権協会(出)許諾第8570301-501号

音 色	リズム	ピアノABC	
ピアノ 4	ボサノバ ・リズムボリューム  ・テンポ 	<CVP-7> ・ピアノABCスイッチON ・アカンパニメント1 ・ボリューム   	<CVP-5> ・ピアノABCスイッチON ・ボリューム 

いそしぎ

シーケンサーメモリーにコードとベースを記憶させて弾いてみましょう。(20~23ページ参照)

メロディー

コード

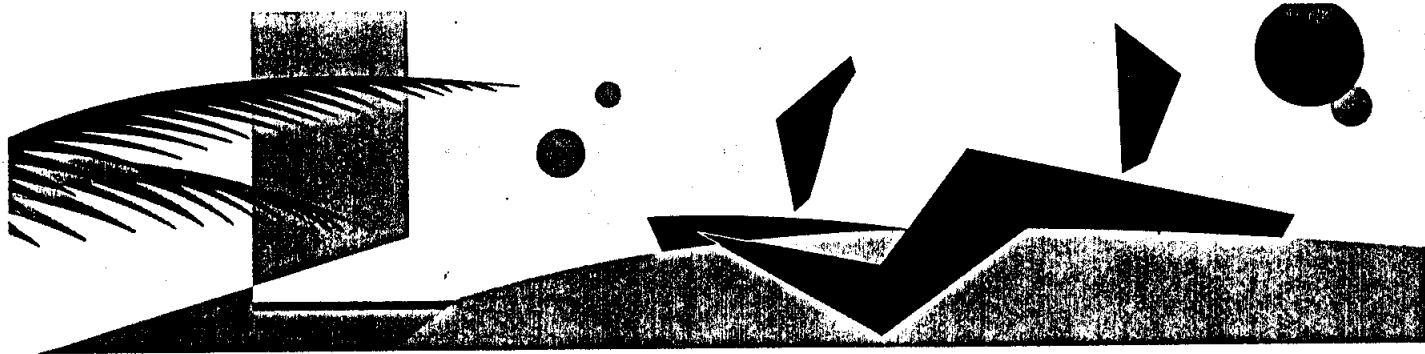
ベース

Em C^{on}E D^{on}E Em CM7

Am7 F#m7^{on}B B7(b9) F#m7 B7(b9)

Em7(9) A7(13) 1. Am7 D7(9) GM7

CM7 F#m7-5 B7(b9) Em7(9) Em EmM7 Em



J. MANDEL 作曲

メロディー

コード

ベース

C[#]m7-5 F[#]7 F[#]m7 B7(b9) オクターブ ON

メロディー

コード

ベース

2. Am7 D7(9) Bm7-5 E7(b9) Am7(9)

メロディー

コード

ベース

Cm7 F7 Bm7 E7(b9) A7(13) A7(b13) Am7 D7(9)

メロディー

コード

ベース

G F on G G F on G GM7

© 1985 METRO-GOLDWYN-MAYER INC.
All rights controlled and administered by MILLER MUSIC CORPORATION
All Rights Reserved
Publication rights for Japan assigned to NICHION, INC.

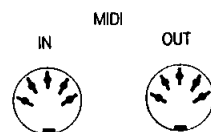
日本音楽著作権協会(出)許諾第8570301-501号

MIDIの楽しみかた

クラビノーバには先進のエレクトロニクス楽器ならではの楽しみ方ができる、MIDI端子がついています。他のキーボードと接続してひとりでアンサンブルをしたり、パソコンとつないでクラビノーバに自動演奏させるなど、より多彩な音楽表現をすることができます。

MIDIとは…?

MIDIは「ミディ」と読み、Musical Instrument Digital Interface (ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス)の略。日本語にすると「楽器間デジタル通信」ということになります。簡単にいうと、電子楽器と電子楽器がうまくコミュニケーションをとりあい、



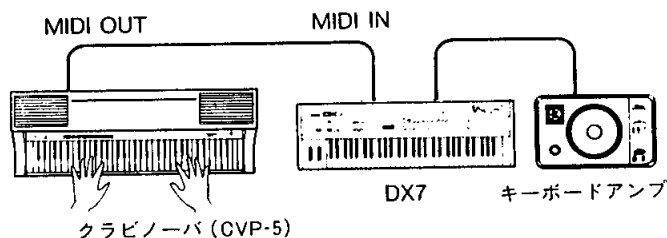
その情報(つまり音程とか音をのばす長さなど)を互いに交換するためのもの。そして、このMIDIは世界の電子楽器の統一規格。どのメーカーの製品でも、MIDIがついていれば情報交換をすることができます。

とりあえず、つないでみよう

難しい理クツは抜きにして、とりあえず、最も代表的な使い方といえる、他の電子キーボードとの接続を試みよう。

■クラビノーバを演奏して他のキーボードとアンサンブル

(例：デジタルシンセサイザー DX7との接続)

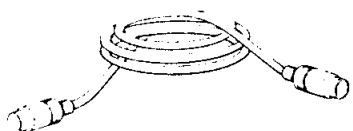


上図のようにクラビノーバのMIDI OUTとDX7のMIDI INを接続すれば、クラビノーバを演奏するだけでDX7からも音をだすことができます。つまりクラビノーバの鍵盤をおさえた情報が瞬時にDX7に伝わり、音程や音の長さ、タッチなどの同じ音がDX7からもでて、厚みのある演奏ができるのです。この時、音色は別々に指定することができるので、クラビノーバのピアノ系音色にDX7のストリングス系の音色を組み合わせるとピアノコンチェルト風の演奏をひとりで楽しむなど、工夫でいろいろなアンサンブルをつくりだすことができます。

この演奏する方のキーボード(この場合はクラビノーバ)を「マスター」、情報を受けとって音をだす方を「スレーブ」と呼びます。このほか、PS-6100などと接続しても、アンサンブルが楽しめます。

また、クラビノーバの方を「スレーブ」にして、他のキーボードの演奏にユニゾンで鳴らすこともできます。

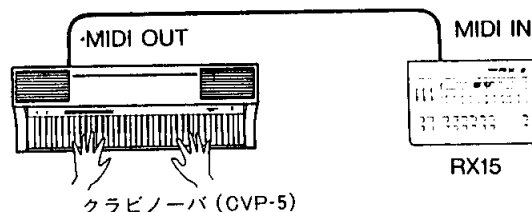
接続に使うMIDIケーブル



MIDI-15(15m)
MIDI-03(3m)

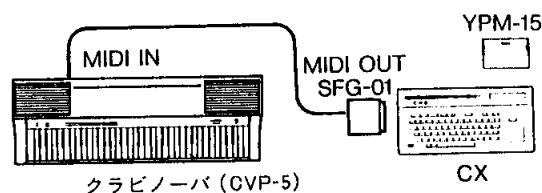
キーボードばかりではなく、リズムマシンやパソコンと接続して楽しむこともできます。

■リズムマシンRX15とプレイ



クラビノーバのリズムもPCM音源だけあってなかなかの迫力ですが、もっとラテンっぽいリズムの華やかな曲を雰囲気だして演奏したいとか、曲の途中にドラムソロを入れたい、なんていうときは、リズムマシンRX15と図のように接続。また、RX15は10曲分もメモリーすることができるので、あらかじめドラムパートをメモリーさせておき、クラビノーバのリズムとあわせてツインドラムで楽しむこともできます。

■パソコンでクラビノーバ自動演奏



自分でプレイするかわりに、パソコンでクラビノーバに演奏させるという楽しみ方もできます。たとえばヤマハMSXパソコンCXシリーズには、ミュージックコンポーザー(YRM-15)という音楽入力用ソフトがありますので、これを使って、演奏させたい曲を打ち込むだけ。クラビノーバが自動演奏してくれます。音色は、曲のイメージに合わせて自由に選べます。

MIDI仕様

■クラビノーバのMIDIでできること

- 鍵盤押鍵情報の送信、受信
- 音色ナンバーの送信、受信
- ソフトペダル、ダンパーペダルのコントロールの送信、受信
- MIDIクロックの送信、受信

■電源ON時の状態

- クロックはインターナルクロック
- 受信チャンネルは設定されていません。どのチャンネルからの送信も受信します(OMNI ONの状態)。
- プログラムチェンジ(音色のナンバー)は設定されていません。そして音色の切り換えを受信・送信できる、プログラムチェンジ可能モードになっています。

切り換えの操作

下の各操作はリズムが鳴っていると機能しません。必ずリズムをストップさせてから行ってください。

(A) クロックの切り換え

接続した2台の楽器、両方がリズムをもっている場合(例:クラビノーバとRX15)、演奏する方の楽器“マスター”のクロックを「インターナルクロック」、情報を受けて音をだす方の楽器“スレーブ”のクロックを「MIDIクロック」にセットしないと、2台のリズムのテンポは合いません。右の手順で切り換えてください。なお、MIDIで接続していないとき、MIDIクロックになっているとリズムはスタートしません。

(B) 受信チャンネルナンバーのセット

MIDIでは、必要な情報だけを送・受信できるように、各情報には、チャンネルナンバーが指定されています。このチャンネルとは、いわばテレビのチャンネルと同じ。放送局が1チャンネルで送信したものは、受けるテレビも1チャンネルに合わせなければなりません。MIDIには1チャンネル～16チャンネルまでのチャンネルが使えますが、このクラビノーバでは送信の時は1チャンネルを使うようにセットされています。そして、必要な情報だけを受信できるように、右記の操作で受信チャンネルナンバーをセットします。

(C) プログラムチェンジ・モードの切り換え

たとえば、クラビノーバとDX7を接続している時、クラビノーバの音色を演奏途中に変えるとDX7の音色も変わるというのが、プログラムチェンジ可能モード。クラビノーバの方は変えてもDX7を変えたくない時に使うのがプログラムチェンジ不可能モード。クラビノーバでは、このどちらのモードにも切り換えられます。また、MIDIでは音色の情報も“№1の音色”というように数字で送信・受信するため、クラビノーバの音色も、ナンバーが決めています。№0が左端ハーフシコード1、左から順に№2、3…となり№15がクラビノーバトーン5です。また、受信のとき№16以上の情報は、折り返して0～15に割りあてられます。

操作手順

●インターナルクロック→MIDIクロックの切り換え

- ①トランスポーターを左端(b6)にセット。
- ②フィルインをおしながら、ステレオシンフォニックのボタンをON。

●MIDIクロック→インターナルクロックの切り換え

- ①トランスポーターを左端(b6)にセット。
- ②フィルインをおしながら、ステレオシンフォニックのボタンをOFFにします。

操作手順

- ①トランスポーターを左端(b6)にセット。
- ②フィルインをおしながら、音色セクターでチャンネルを指定。音色セクターの左端ハーフシコード1が1チャンネル、左から順に2、3、4…となり、右端クラビノーバトーン5が16チャンネルを指定するボタンです。

操作手順

●可能モード→不可能モードの切り換え

- ①トランスポーターを左端(b6)にセット。
- ②フィルインをおしながら、ピアノABCのスタッカートのボタンをON。

●不可能モード→可能モードの切り換え

- ①トランスポーターを左端(b6)にセット。
- ②フィルインをおしながら、ピアノABCのスタッカートのボタンをOFFにします。

Clavinova CVP-7・CVP-5

MIDIインプリメンテーションチャート

Date:8/23.1984

Version:1.0

ファンクション…		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1チャンネル ×	1チャンネル 1~16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 ポリ/モノ ×	
ノート ナンバー	音 域	28~103(E0~G6) *****	19~103(G-1~G6) 19~103(G-1~G6)	
ペロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 90H, V=1~127 × 90H, V=0	○ V=1~127 ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	64	○	○	ダンパーペダル ソフトペダル
	67	○	○	
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ (0~15) *****	○ (0~127) (0~15)	
エクスクルーシブ		×	×	
コモン	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアル タイム	クロック コマンド	○ ○	○ ○	
その他	ローカル ON/OFF	×	○	
	オール・ノート・オフ	×	○ (122~127)	
	アクティブ・センシング	○	○	
	リセット	×	○	
備 考				

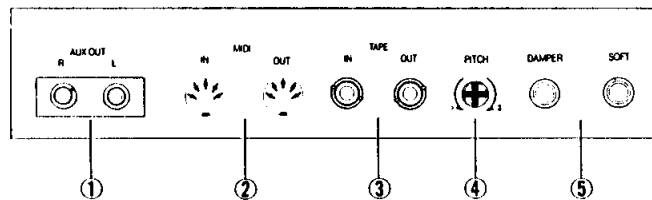
モード 1: オムニ・オン, ポリ モード 2: オムニ・オン, モノ

○: あり

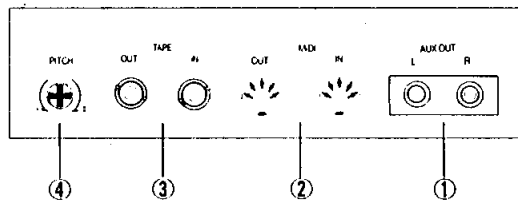
×: なし

付属端子とオプション(別売付属品)

(CVP-5)

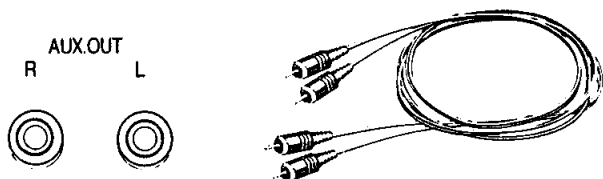


(CVP-7)



①AUX. OUT端子

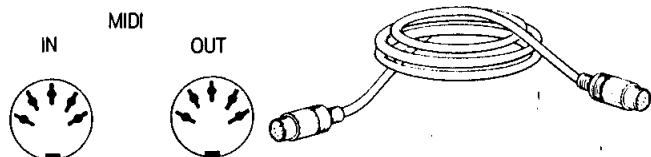
ご家庭のオーディオなど出力の大きなスピーカーに接続すると、イキイキとした迫力あるサウンドをいっそうお楽しみいただけます。この端子を使って、オーディオなどのLINE IN端子に接続してください。



●接続コード[PSC-3](ステレオ)
¥1,000

②MIDI端子

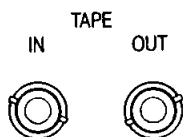
他のデジタル楽器やコンピューターと接続して、情報交換する時に使います。(くわしくは、30ページ“MIDIの楽しみかた”をお読みください。)



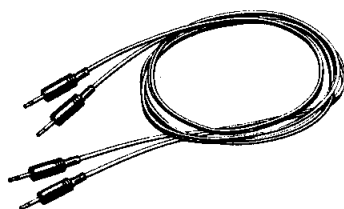
●MIDIケーブル
[MIDI-15] (15m) ¥3,800
[MIDI-03] (3m) ¥1,400

③TAPE端子

パフォーマンスメモリーやシーケンサーメモリー記憶させたデータをカセットテープに保存したり、またテープから本体に戻したりする時に使います。(くわしくは25ページを参照してください。)



●インターフェイスクーブル
[PSC-4] (1m80cm) ¥1,000



④PITCHコントロール

他の楽器とアンサンブルする時など、音程を微妙に調節できます。プラストライバーでまわしてください(中心より±50セント変化します)。

PITCH



⑤SOFT端子 DAMPER端子(CVP-5のみ)

付属のソフトペダル、ダンパーペダルを接続する端子です。接続方法は、35ページ“組立て方”を参照してください。

DAMPER

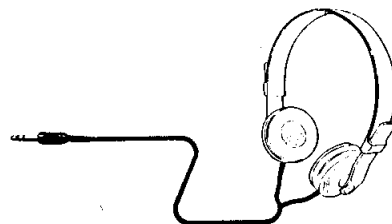
SOFT



HEADPHONES端子

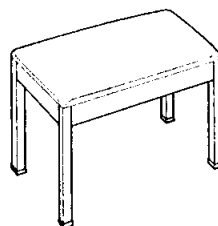
ヘッドホンを使えば、夜間などでも周囲を気にすることなく演奏を楽しむことができます。この端子にヘッドホンを接続してください。ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでも使えます。

HEADPHONES



●ステレオヘッドホン[YHD-3]
¥5,500

オプション(別売付属品)



●専用イス[BC-5]
¥7,500

●CVP-5用キーカバー(アクリル製)
[KC-10] ¥6,000

●RAMミュージックノートブック(8Kバイト)
[RA-8] ¥12,000

故障と誤りやすい現象

現 象	原 因	解 決 法
パワースイッチを入れたとき、ポツンと音がする。	電流が流れたため。	ご心配いりません。
音色セクターで選んだ音色とは別の音色がでる。	ピアノABCを使っているとき、ピアノABC用鍵盤部で弾いている。	ピアノABCを使っているとき、ピアノABC用鍵盤部の音色は選んだ音色と関係ありません。ピアノABCを使わずに低音域で演奏したい時は、ピアノABCスイッチをOFFにします。
鍵盤を同時に17音おさえても16音しかでない。また、ピアノABCを使っているとき、同時に9音おさえても8音しかでない。	音色は同時に16音までしかでないようになっています。また、ピアノABCを使っているときは8音、オクターブを使うと4音しかでないようになっています。	先におさえた音が優先します。
リズムの音がでない。	①スタートボタンがどちらもおされてない。 ②シンクロスタートボタンをおしてピアノABC用鍵盤部をおしていない。 ③リズムボリュームが最小になっている。 ④クロックがMIDIクロックになっている。	①②③ 7 ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。 ④ 31 ページの説明を読んで、クロックをインターナルクロックに戻してください。
リズムセクターで選んだリズムとは別のリズムがでる。	①上下の選択をしていない。 ②フィルインがおされている。	①同じボタンをもういちどおすと上下反対がわのリズムになります。 ②フィルインをおすと、リズムは変化パターンに切りかわります。
ピアノABCの音がでない。またはリズムにのらない。	①ピアノABCスイッチがOFFになっている。 ②ピアノABC用鍵盤をおさえていない。 ③ピアノABCボリュームが最小になっている。 ④リズムがセットされていない。 ⑤パフォーマンスメモリーを使用している。	①②③④ 8～9 ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 ⑤パフォーマンスメモリーを使用しているとき、ピアノABCは使えません。
ピアノABCで伴奏しているとき、指を変えてもコードが変わらない。	オートベースコード用鍵盤を指を離さずに弾いているため。	コードを変えるときは、いちど鍵盤から指をはなすようにしてください。
オクターブの音がでない。	①ピアノABCを使っていない。 ②C#6よりも高い音域の鍵盤を弾いているため。	①オクターブはピアノABCと連動しています。ピアノABCスイッチをONしてください。 ②C#6よりも高い音域の鍵盤(右端から4つの白鍵と3つの黒鍵)からはオクターブの音はでません。
ペダルの効果がかからない。	①(CVP-5) 付属端子にペダルのプラグが接続されていない。 ②ピアノABCスイッチをONしている時、ピアノABC用鍵盤で弾いている。	① 39 ページ組立て方の7を参考に、接続してください。 ② ペダルの状態はピアノABCの音に関係ありません。

現 象		原 因 と 解 決 法
ROMミュージックブック使用時	鍵盤をおさえても音がでない。また、ガイドもしくはマイナスイオン演奏のとき5音おさえても4音しかでない。	ROMミュージックブックを再生しているとき、鍵盤をおさえても音はでません。また、ガイドもしくはマイナスイオン演奏にしているとき、レフトパートとライトパートなら4音、オーケストラパートは8音まで発音します。
	ガイドランプが点灯しない	①ランプキャンセルがおされているとガイドランプは点灯しません。ランプキャンセルのボタンをもう1度ONしてください。 ②オーケストラボリュームを最小にして、オーケストラパートのマイナスイオン演奏にしたとき、ガイドランプは点灯しません。
	複数曲を連続再生しているとき、ROMミュージックブックのROMチップをソケットからぬいたら次の曲を再生しなくなった。	連続再生のとき、ROMミュージックブックから1曲ずつ本体にデータがおくられてくるしくみのため、ソケットからROMチップをぬくとその時演奏していた曲がもう1度くり返されて演奏がストップします。
	音色やテンポなどの変更ができない	①自動演奏されている音色の変更はできません。 ②リズム、テンポ、ステレオシンフォニックの変更をしたいときはプレイをONしたあとに行ってください。
パフォーマンスメモリー使用時	鍵盤をおさえても音がでない。また、メモリーさせているとき同時に9音おさえても8音しかならない。	①パフォーマンスメモリーのレフトとライトを両方とも再生しているとき、鍵盤をおさえても音はでません。 ②メモリーさせているときレフト、ライトそれぞれ8音まで発音します。また、レフトレコード時にベースもメモリーさせると、レフトパートは6音、ベースパートは2音まで発音します。
	再生しているとき、はじめの1小節のリズムがでない。	メモリーのときイントロカウントとしてなったメトロノーム音は再生のときにはなりません。
	再生のとき、音色やテンポの変更ができない。	①メモリーしたものの音色はあとで変更することはできません。 ②リズム、テンポ、ステレオシンフォニックの変更はプレイをONしたあとに行ってください。
シーケンサーメモリー使用時	コードとベースの再生があわない。	ベースをメモリーするとき、最初のイントロカウントをまたずに演奏したり、リズムスタートをおさずに鍵盤をおさえてメモリーを開始すると、コード演奏の出だしと合わなくなります。
	リピートのとき、ベースの出だしが再生されない。	イントロカウントのときにメモリーさせた演奏はくり返しのときには再生されません。
	リピートのとき、ノーコードの小節が入ってしまう。	ベースをメモリーしたとき、演奏を終了した次の小節でストップボタンをおしたため、演奏を終了したらずにストップボタンをおしてください。
	CVP-7でRAMミュージックノートブックもしくはカセットにセーブしたシーケンサーメモリーのデータをCVP-5で再生したらピアノABCの音がでない。	CVP-7でセーブしたデータをCVP-5にロードするとデータ内容によってピアノABCの音がでないことがあります。CVP-5のピアノABCのバリエーションをONにしてください。また、CVP-7とCVP-5の機能が少し違うためCVP-7でセーブしたデータをCVP-5にロードしたり、CVP-5でセーブしたデータをCVP-7にロードすると、メモリーしたパターンどおりに再生されないことがあります。

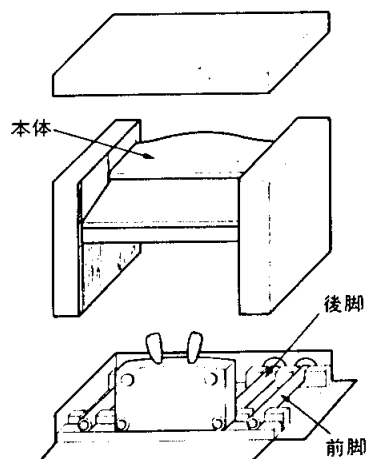
組立て方

クラブノーバは次のような手順で組立ててください。

また、お引越しの際など、梱包の必要がある時は、逆の手順で解体してください。

CVP-7

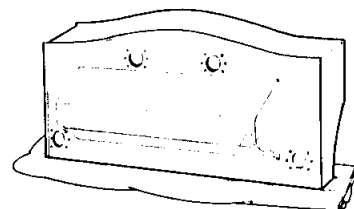
1 ●箱をあけ、各パーツをとりだします。



- //// //// キャップスクリュー(16)
- ワッシャー(小)16
- ワッシャー(大)16
- /// /// ネジ(8)
- ✓ 六角レンチ

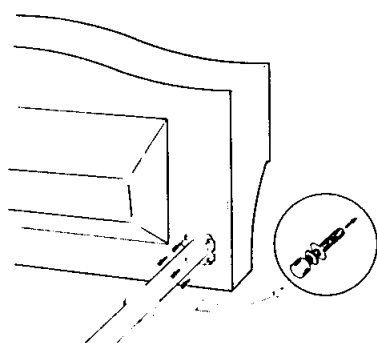
箱をあけると、上図のパーツが入っています。すべてそろっているか、お確かめください。組立ては2人以上で行い、本体を傷つけないよう毛布などの柔らかい布をご用意ください。

2 ●本体を床におきます。



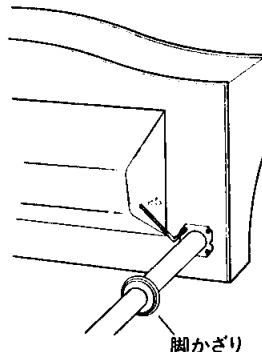
毛布などの柔らかい布を床に敷き、図のように本体をおきます。この時、本体が倒れないように壁にたてかけてください。

3 ●2本の前脚をとりつけます。



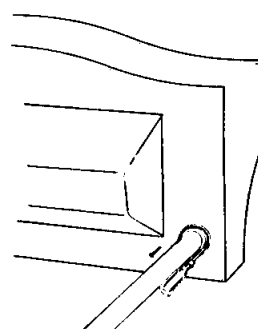
図のように、大小2つのワッシャーをつけたキャップスクリューを使って前脚を本体にとりつけます。

4 ●六角レンチでキャップスクリューをしめます。



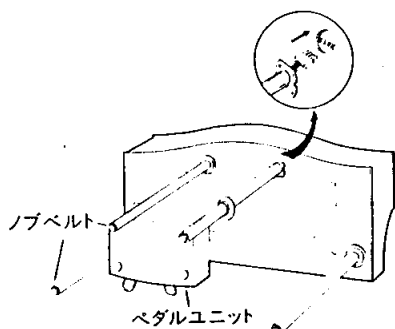
付属の六角レンチで3のキャップスクリューをしっかりとしめつけます。

5 ●脚かざりをとりつけます。



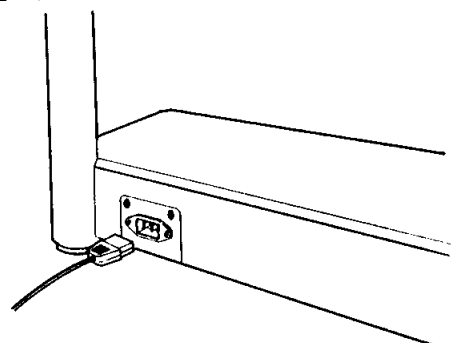
脚かざりを脚の付根まであげ、プラスドライバーでネジをしっかりとめつけてとりつけます。

6 ●後脚をとりつけます。



まず、後脚のなかに入っているコネクターを本体に接続します。それから、3.4.5と同じ方法で脚かざりと後脚を本体にとりつけます。

7 ●クラブノーバをおこし、電源プラグをソケットに差込みます。

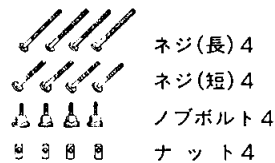
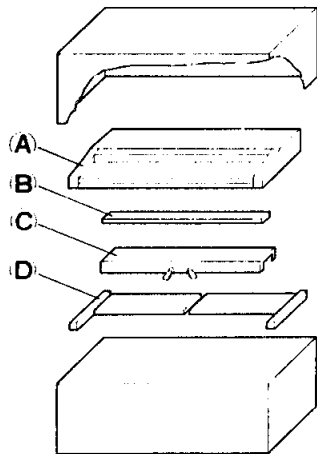


ペダルユニットの背面についているソケットに電源プラグを差込みます。

★前脚と後脚の底部にノブボルトがついています。床によって本体がぐらつくときは、脚の長さを調節してください。

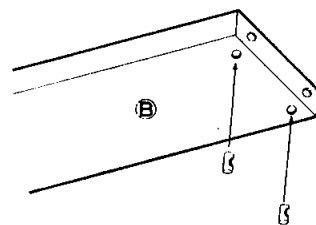
CVP-5

- 1 ●箱を開け、各パーツをとりだします。



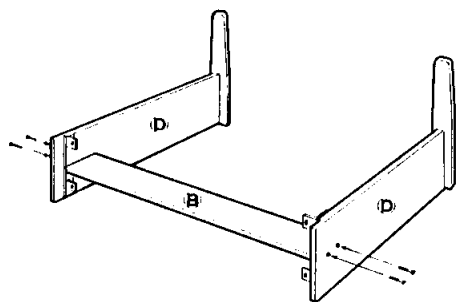
箱を開けると上図のパーツが入っています。
すべてそろっているかご確認ください。

- 2 ●ナットをB板の穴に入れます。



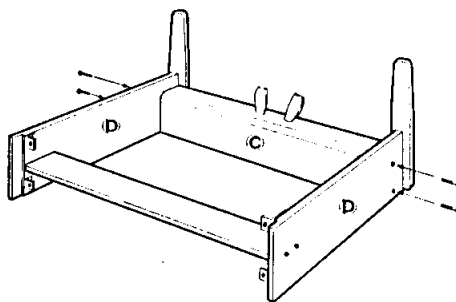
図のように、外がわにナットの穴がくるように
B板の4スミの穴に入れます。

- 3 ●B板とD板をつなぎます。



B板の穴とD板の穴をあわせ、4本のネジ
(長)をドライバーでしっかりと止めます。

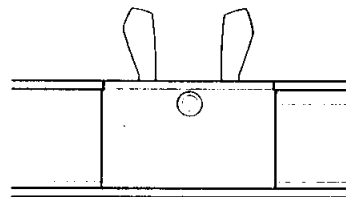
- 4 ●D板とC板をとりつけます。



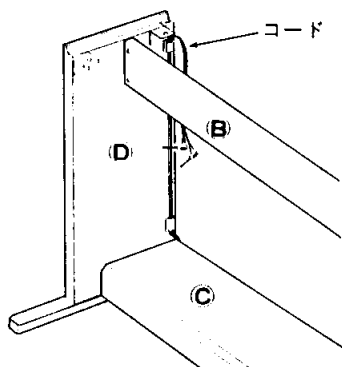
D板にC板をとりつけ、4本のネジ(短)で
しっかりとめます。この時、ペダルのついて
いる方が前になるよう、ご注意ください。

★C板底部に安定のためのノブボルトが
ついています。床からの高さに合わせて
調節してください。演奏中、ペダルを踏ん
だ時も安定し、よりペダルの効果をかけ
やすくなります。

(C板底部

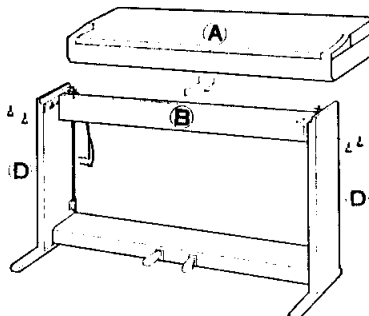


- 5 ●コードホルダーにコードをとめます。



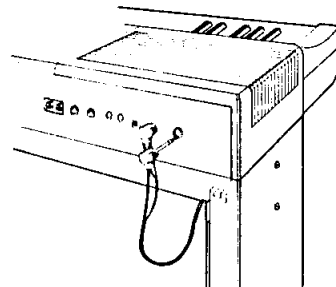
スタンドを起し、C板からでているペダル
のコードを、D板内側のプラスチックのコー
ドホルダーにしっかりとめます。

- 6 ●鍵盤部をはめこみます。



Aの鍵盤部を、D板のミゾにあわせて後
方から前へスライドさせ、動かなくなるまで
はめこみます。B板、D板の金具の穴と、A
板の穴をあわせ、ノブボルトでしっかりと
めます。

- 7 ●プラグを接続します。



鍵盤部A背面の付属端子にペダルのプ
ラグを差し込みます。
グレーのプラグはDAMPER端子、黒い
プラグはSOFT端子に接続してください。

仕様

	CVP-7	CVP-5
鍵盤	76鍵(E0~G6) イニシャルタッチ付き	
音色	ハープシコード1、ハープシコード2、ピアノ1、ピアノ2、ピアノ3、ピアノ4、セレスタ、ビブラフォン、マリンバ、ギター1、ギター2、クラビノーバトーン1、クラビノーバトーン2、クラビノーバトーン3、クラビノーバトーン4、クラビノーバトーン5	
効果	ステレオシンフォニック、ダンパー、ソフト	
リズム リズム セレクター	8ビート-16ビート、ロックンロール-ディスコ、スローロック-バウンス、ボサノバ-サンバ、カントリー-ラテン、マーチ/ポルカ-タンゴ、ワルツ-ジャズワルツ、バラード-スウィング	
コントロール	リズムボリューム、テンポコントロール、テンポランプ、スタート、シンクロススタート、ストップ	
その他	4バー/8バー、ハンドクラップ1・2、フィルイン	
ピアノABC	ピアノABCスイッチ、スタッカート、オクターブ、アカンパニメント1・2・3	ピアノABCスイッチ、スタッカート、オクターブ、コードキャンセル、バリエーション
コントロール	コードボリューム、ベースボリューム	ピアノABCボリューム
R O M ミュージック	ランプキャンセル、レフトガイド、ライトガイド、プレイ、ストップ、ソング、フレーズセレクター(1・2・3・4・5・6・7・8・9・0・ー)、エンター、フレーズセレクト、ソングセレクト、ROMミュージックブックソケット	
コントロール	オーケストラボリューム、レフトボリューム、ライトボリューム、ガイドランプ	
パフォーマンス メモリー	レフトレコード、ライトレコード、レフトプレイ、ライトプレイ、ポーズ、キースプリット	
コントロール	ベースボリューム、レフトボリューム、ライトボリューム	
シーケンサー メモリー	コードレコード、ベースレコード、コードプレイ、ベースプレイ、ポーズ、音符ボタン(♪・♪・♪)	
RAMミュージック &カセット コントロール	ロード、セーブ、コンファーム	
その他の コントロール	パワースイッチ、パイロットランプ、マスターボリューム、トランスポザー(1オクターブ)、ピッチコントロール(±50セント)	
付属端子	ヘッドホン、AUX. OUT L-R、テーフ IN-OUT、MIDI IN-OUT、/(CVP-5のみ)ダンパー、ソフト	
メインアンプ	30W×2	5W×2
スピーカー	18cm×2, 3cm×2	16cm×2
定格電源	AC100V 50・60Hz	
消費電力	60W	28W
仕 上 げ	ブラックローズウッド仕上げ	ブラックメタリック/ローズウッド仕上げ
寸 法 (間口×奥行 ×高さ)	125×64×81(cm)	116×42×76(cm)
重 量	67.5kg	45.5kg
付 属 品	スタンド、ダンパーペダル、ソフトペダル、ROMミュージックブック(メロディーマスター編、コードマスター編)、トップカバー(CVP-5のみ)	

アフターサービスと保証

■保証

クラビノーバの保証は、保証書の規定により満1カ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は、日本国内のみ有効といたします。

■保証書は大切に保管してください

クラビノーバ納入の際、保証書もお渡しますので大切に保管してくださいませようお願いいたします。保証書は弊社がご購入いただいたお客さまにご購入の日から向こう1カ年間の無償サービスをお約束申し上げますが、万一紛失されますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。

■保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合には、直接お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整いたします。
2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますが、ご了承ください。
3. 遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますとともに、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

■保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間がすぎますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介いたします。

■サービスのご依頼

ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、他の電気製品を接続してお確かめください。
2. ご使用中に“故障ではないか”と思われましたら、まず本書の“故障と誤りやすい現象”の項をいま一度お読みいただき、お確かめください。（ご依頼をお受けして点検いたしますと故障でない場合でも点検代を申し受けしますのでご注意ください。）

クラビノーバの様子は詳しくお知らせください

1. できれば実際にクラビノーバをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音がでる●クラビノーバの音をださなくても、スイッチをいれるだけで雑音がでるなどの場合です。

忘れずにお知らせください

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買い上げ年月日、機種名…保証書に記載されています。症状…なるべく具体的に。

■サービスのお約束について

1. お仕事の関係で仕事先にお客さまや留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時のご都合が悪い場合は、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービス依頼をされたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも裏表紙記載の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL. 0252-43-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL. 06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内 TEL. 0878-51-7777, 22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 TEL. 日本楽器名古屋流通センター TEL. 052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL. 011-781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 0222-36-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL. 082-874-3787
浜松電音サービスセンター	〒432 浜松市東伊場2-13-12 TEL. 0534-56-9211
(本社) 電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL. 0534-65-1158

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。



本 社	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL. 0534(60)2191
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル TEL. 03(572)3111
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館 TEL. 06(251)1111
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052(201)5141
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2151
北海道支店	〒064 札幌市中央区南1条西1-4/ヤマハセンター TEL. 011(512)6113
仙台支店	〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル TEL. 0222(22)6141
広島支店	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL. 082(244)3744
浜松支店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL. 0534(54)4116